様式第２号

事務事業評価表（建設事業等）

評価対象年度	平成 28 年度
１次評価日（主幹等）	29 年 3 月 31 日
２次評価日（課長等）	29 年 3 月 31 日

１ 事業名	道路新設改良事業			コード	141203
２ 担当部課	部等	建設水道部	課等	土木課	作成者 宮本　秀幸

３ 事業概要	目的体系	基本目標	快適に生活できる、都市機能の充実したまち	
		政　策	交通網の整備	施　策 道路の整備
	予算科目	土木管理事務費／道水路整備事業費	業務委託	なし（直営）
	実施義務	あり（義務的・標準的事業）	国県補助	あり

●事業の実施内容（DO）

４ 事業の概要等

＊対象者（誰のため）、意図（どのような状態にしたいのか）

事業の概要（簡潔に）		市道の新設改良の実施
目的	対象者	市民
	意　図	市道の安全性と利便性の向上を図る

５ 事業の必要性

＊事業を計画した当時、この事業が必要になった状況・理由

幅員４ｍ以上の市道（生活道路）整備を基本に、道路の拡幅、交差点改良、道路側溝及び水路等の排水施設整備、舗装の改修などの工事を実施し、安全で快適な道路環境整備を図る。
また、地区及び市民の要望等もふまえ、地域の課題解決のため地区と協議しながら、きめ細かい整備を図る。

６ 事業の全体計画

＊各年度の取組計画

予定全体事業費	3,800,000,000 円	事業期間	H16年度～
26年度まで	道路新設改良工事　462箇所		
27年度	道路新設改良工事　（地域の主要路線整備　4箇所、溢水対策　6箇所、道路改良　10箇所、道路後退整備　8箇所、交通安全施設整備　9工事）		
28年度	道路新設改良工事　（地域の主要路線整備　5箇所、道路改良　18箇所、道路後退整備　6箇所、交通安全施設整備　3工事）		
29年度以降	道路新設改良工事　（地域の主要路線整備　3箇所、溢水対策　2箇所、道路改良　15箇所、道路後退整備　1式、交通安全施設整備　２工事）		

７ 事業の実施内容

＊各年度の進捗状況

26年度まで	道路新設改良工事　462箇所
27年度	道路新設改良工事　（地域の主要路線整備　4箇所、溢水対策　6箇所、道路改良　10箇所、道路後退整備　8箇所、交通安全施設整備　9工事）
28年度	道路新設改良工事　（地域の主要路線整備　5箇所、道路改良　18箇所、道路後退整備　6箇所、交通安全施設整備　3工事）
前年度の課題への対応	道路構造物の破損等が目立っており、地域の要望も多いため、現状把握を強化しながら、計画的整備を進める。

8 コストの推移

＊この事業にかかる費用（人件費は、1人あたり年間800万円で換算）　［単位：円］

区　分		26年度まで(累計)	27年度	28年度	29年度(予算)
① 直接事業費		3,181,293,847	287,162,033	245,815,623	283,379,000
	経常経費	2,840,424,602	287,162,033	245,815,623	283,379,000
	臨時的経費				
	＊臨時的経費の説明				
② 人件費			28,000,000	28,000,000	28,000,000
	正規職員の人数（人）		3.50	3.50	3.50
③ 合計コスト（①＋②）		3,181,293,847	315,162,033	273,815,623	311,379,000
	前年度比			86.9%	113.7%
	財源内訳　一般財源	3,181,293,847	68,822,033	216,964,623	67,079,000
	財源内訳　特定財源		246,340,000	56,851,000	244,300,000
	＊特定財源の説明				

●事業の評価（CHECK）

9 事業の進捗状況

区　分		26年度まで(累計)	27年度	28年度	29年度(予算)
進捗率	直接事業費の執行率	83.7%	91.3%	97.7%	
	その他の進捗率				
	＊その他の進捗率の説明				

事業をとりまく環境変化		
	今まで	（これまでに生じた政治・経済・文化などの状況変化のうち、この事業に影響があったこと） 近年の財政状況から事業費の大幅な縮減により、計画工事開所が減っている。 また、道水路等施設の老朽化が進んでおり、新規建設の投資から施設の更新、維持管理に予算を配分していく必要がある。
	今後	（29年度以降に予測される政治・経済・文化などの状況変化のうち、この事業の進行・完了に影響すると思われること） 国の補助事業（道整備交付金・社会資本整備総合交付金）の交付金の配分率が下がってきており、事業期間内に完了できなくなる。 今後は、配分率の良い、橋梁長寿命化計画の中の、橋梁点検、橋梁補修の事業を推進していく予定。

●改善の内容（ACTION）

10 今後の課題と対応策

今後の課題	（環境変化を考慮して事業を進めていく上で、29年度以降に課題になること） 過去に整備してきた道路構造物において、老朽化が進み、安全な通行を確保することが難しくなる。
課題への対応策	（上記の課題をふまえて29年度に実施する、具体的な対応方法） 道路パトロールや区、市民からの情報をデータ管理するとともに、維持補修事業と連携して、安全を確保しながら、適正な時期に改良事業を進める。

●次年度の計画（PLAN）

11 次年度の方針	継続して実施	12 施策評価による29年度の優先度 *H27年度施策評価表より転記すること	A